

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人としての尊厳を重んずる生き方を、豊かな自然、家庭的な雰囲気の中で、その人その人の力に応じた役割を持った日々の営みにより作りだしていく理念を役職員全員で作成		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の内容を日々確認出来る様に施設内に提示している。常に理念を念頭におき利用者の支援に心掛ける様、職員間、又は職員会議において周知徹底している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	パンフレット、運営規程等を始め、ホームページに記載している 又、説明をしている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩、買い物等に出掛け近隣の方々と交流を行っている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の行事について町内会に案内して多くの方々に参加していただいている。又、町内会の行事にも積極的に参加し幼稚園、小学校、中学校、部落の方々との交流とボランティアの交流を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地区主催の講演会(年1回)に理事長が講師として高齢者問題で啓蒙活動を実施している。 実習生の受け入れ(ニチイ学館、中学生等)	○	介護技術講習会の実施
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価について全員で確認しながら理解を深め、一人ひとり自己評価に取り組み職員会議にて一つずつ確認しながら意見を出し合い改善に取り組んでいる。又、評価を受け、気付いた点、改善すべき点についても話し合っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、地域、家族の方々と意見交流を行い、様々な意見や本音を参考に目標に取り入れ取り組んでいる。	○	取り組みの状況や現状の報告以外、色々なテーマについて検討 複数の方の参加
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の定期的訪問により気付いた点等参考になっている。 ケア会議に参加し、情報交換、相談等意見交換を行っている		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について施設内に提示している。又、市町村担当者より説明を受けている。	○	地域福祉権利擁護事業、成年後見制度についての研修に参加し理解を深める
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市町村担当者より高齢者虐待防止関連法について説明、指導を受けている。又、職員一人ひとり、言動に留意している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書、運営規程、重要事項説明書等を示しながら利用者、家族に説明を行い、疑問点、理解の相違について十分話し合い、理解、納得を得ている。</p> <p>入所、退所の際は本人、家族と良く話し合い理解を得ている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が意見を言えるようコミュニケーションを図っている。</p> <p>又、施設内に意見箱の設置。月1度の相談員の施設訪問。いつでも外部者へ相談出来るよう相談窓口の提示をしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホーム便りを発行し暮らし方や職員の異動等について報告しているケア計画を作成し、個々の状態の報告と計画について説明し、確認の上署名、捺印していただき、金銭管理についても随時報告、確認していただいている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に苦情申し立てについて記載し説明している。</p> <p>施設内に意見箱の設置。</p> <p>家族が職員に気兼ねなく話す事が出来るよう、コミュニケーションを図っている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>問題や改善点、意見等については職員会議等で話し合い伺いを立てながら反映させている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況の変化や緊急時は話し合い、調整により対応出来る。職員も状況を把握しており積極的に対応している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>信頼関係を築くことは大切であり極力異動等は抑えるよう心掛けている。職員が定着する職場環境整備に努めている。</p> <p>又、給料等、仕事に対する意欲については人事考課制度導入と仕事面では業務基準に基づいて行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>勤務年数、実務経験を考慮し研修委員会において年間行事計画に基づいて受講させている。資格習得の為の研修、他の施設研修等を実施する中で、職員の学習意欲の向上を図り、環境を整えている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム定例会参加し意見交換、交換研修(他の施設研修)。ケア会議参加。町内会の他の施設の見学、親睦会等に参加し様々な問題について情報交換し、質の向上に取り組んでいる。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員一人ひとりの仕事の悩み、意見、要望を出し合い改善に向けて取り組めるよう支援している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>人事考課制度により自己目標を立て仕事にますます意欲向上心を持って勤務出来るよう努めている。</p>	
<p>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>			
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用に至る前にホームを見学して頂いたり訪問し、本人に会って話しをする機会をつくり、安心して利用できるよう努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族が抱える様々な問題や不安に対し良く話を聞いて対応に心掛け理解と安心に努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の状態、要望等話を聞きグループホームを理解して頂いた上で、本人に合った適切な支援について他のサービスも含めた対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にいつでも遊びに来たり、利用後に家族が来て泊まれる環境であり、その状況に応じて家族と相談しながら対応に努めている。又職員も本人の立場や不安の理解に努め馴染みやすい環境づくりに取り組んでいる。		
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生経験先輩者であり様々な場面で教えられ学んでいる。昔の習わしを聞いたり、行事食など教えられながら一緒に作っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族とコミュニケーションを図りながら本人に関する色々な情報を共有しより良い支援に向けて取り組んでいる。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人、家族の関係を理解した上でお互いの立場を考慮しながら支援に取り組んでいる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活歴や習慣等の把握に努め、馴染みの場所へドライブに出掛けたり馴染みの人がいつでも気軽に遊びに来れる環境づくりに取り組んでいる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の性格、心身状態の把握、トラブルの要因の把握と対策に努め支援している。利用者同士声を掛け合ったり、心配し手を差し伸べたり、会話を楽しんでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	どんな状況においても利用者や家族との付き合いを大切に考えており、必要に応じ対応に心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりコミュニケーションを図りながら希望や意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者も会話の中に思いが見え隠れしている事も多く聞き逃さぬよう配慮する事で意思の把握に取り組んでいる。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人らしい暮らしを支援する為これまでの過程を把握し、本人、家族とコミュニケーションを図り情報収集に努めケアサービスに生かす取り組みをしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送りやケース記録の確認、記録に努め把握しコミュニケーションを図りながら心身状態の確認をしている。(表情、会話等)		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見、要望を取り入れ個々のニーズに即した介護計画を医師、看護師と連携を図りながら職員全員でケアカンファレンスし作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	常に本人、家族、関係者と話し合いながらケアマネジメントを重ね、より良いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に関する様々な情報は個々のケース記録に記入し職員全員が確認、把握すると共に、日々話し合いながら共有し、介護計画の改善を図っている、		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイは可能であるが、空室が無かった為利用状況なし。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア訪問による、歌、踊り、腹話術、寿司バイキング,その他。陶芸、切り絵作り。消防総合避難訓練(年2回) 実地。幼稚園,小学生訪問、高校生の鬼剣舞にて交流会等		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	月1度のケア会議において意見交換している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の嘱託医、協力病院について入所時に説明し本人、家族と相談の上対応している。又、家族、かかりつけ医と常に連携を図りながら健康の維持に留意している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>嘱託医が認知症に理解があり、週1度の往診において心身の現状報告や相談するなど連携を図りながら支援している。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>法人の看護師の配置により日常の連携が密に図られている。利用者の状態も把握しており利用者の相談に応じたり支援することで利用者も安心している。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者が安心して過ごせるよう病院関係者、家族等と情報交換を行い早期退院に向け努め、退院後の対応についても関係者と意見交換しながら支援している。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期に向けて入所時十分な説明を行っている。又、状態の変化が生じた場合、本人、家族、かかりつけ医等関係者全員と相談し、終末期においては本人、家族に同意を得るよう取り組んでいる。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>利用者の状態の変化に伴ない常にカンファレンスを行い、かかりつけ医、家族と意見交換をし、より良い支援に取り組んでいる。</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>プライバシー保護を考慮した上で必要な情報提供、意見交換に努めている。又、職員も本人が不安にならないよう配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人情報に関して本人、家族から同意を得ながら、対応している。OJTチェックリスト(日常実践している介護業務内容を意識的 point 検しながら自己意識を高める事を目的としている point 検表)を活用し、月の目標に取り入れ、プライバシーの確保の徹底を図っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	言葉、表情を見逃さず、ゆっくり話を聞きながら思いを受け止めている。又、常に納得、安心出来る様に説明、声掛けし本人の意思を確かめてから支援し信頼関係を築いている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員業務を優先せず、常に利用者の立場になって、状況に応じて対応出来る様、話し合い取り組んでいる。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月1度理容士に来ていただき、利用者も自ら希望する方、又、家族と一緒に行き付けの美容院に行く方もおります。起床時には一緒に季節に応じた服を選んだり、整容の支援に努めている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力に応じて準備や片付けに自ら参加している。一緒に買い物に行ったり、畑の野菜でメニューを考えたり、時には外食もある。季節の食材を取り入れ、楽しい食事に取り組んでいる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々の好み、希望を取り入れ支援している。お酒、タバコをする方は現在いないが、自由である。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	月の目標に取り入れ、個々の排泄パターン、サインを把握し記録、申し送りしながら自立支援に取り組んでいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は好きな時に入れるよう支援している。又、入浴が嫌いな利用者に対して声の掛け方やタイミングに留意し支援している。バラ湯、菖蒲湯等行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠を促す為に昼の過ごし方を工夫し、心身状態の把握、観察を行い、眠りやすい環境(落ち着いた雰囲気、眠りやすい寝具、室温、照明等)を整え安心して眠れるよう支援している。又、個々の不眠や健康状態に応じて休息を促したり、一緒に茶の間でお昼寝している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴、趣味、力を活かし、一人ひとり役割を持っていて、それが張り合いであり、楽しみになり日課になっている。手伝いだったり、利用者同士の係わり合いである。又、テレビ鑑賞、歌、ドライブ等希望に応じて支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望によりお金を所持している方、預かり管理している方とおります。希望があってもお金の管理出来ない方に関しては家族と相談しながら必要最小限所持している。週に2～3回の買い物に出掛け、いつでも使えるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望にそって、散歩や馴染みの場所へのドライブや買い物等出掛けている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月ごとに行事の計画を立て皆で出掛ける機会を作っている。お花見、バラ園、ぶどう狩り、紅葉狩り等		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より申し出があった時は職員が電話を取り次ぐ等、気兼ねなく掛けられる様支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人等の訪問はいつでも自由であり、訪問の時は、居室、ホーム、茶の間等、区別なく談笑していただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会を行い「自由と安全」なケアについて話し合いながら理解を深め取り組む事で拘束しないケアが実践出来ている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が日中にいつでも外に出入り出来る環境にあり、お庭に出て畑を眺めたり、散歩に行つて来ると出掛けたりしているが、職員は常に一人ひとりの様子を観察、把握し目配り、見守りに留意している。場を離れる時など、職員同士声を掛け合っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々の日々の習慣や状態を把握し、職員が互いに連携を図りながら観察、見守りし配慮している。夜間も状態を把握し巡視をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁や食器用洗剤等は夜間のみ鍵のかかる場所へ保管している。はさみ、針箱は保管しており、職員と一緒に使用している。それ以外は観察、見守りしながら回避している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修を行い危険予知訓練に努め事故の起こりやすい要因を把握し、危険を避けられるよう配慮している。又、ヒヤリ・ハット、事故報告書を活用し、月に1度事故防止委員会を開いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	心肺蘇生法や応急手当の講習会を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を様々な想定で実施している。地域住民に協力を得ている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族が訪問した際、利用者の近況について報告している。利用者に変化があった場合は電話連絡し、今後の対策について相談している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックと記録をしている。変化があった場合は職員、看護師に伝達し状況に応じて観察、対応している。又、常に表情や、行動を観察し早期発見に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルしてあり、いつでも確認出来る場所に保管している。又、記録、申し送りを徹底して行っている。看護師、かかりつけ医と連携を図り体調の変化に留意している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事の量、水分摂取量を把握し、水分を摂りたがらない利用者にはゼリーや果物等好みの者など工夫している。又、適度に体操、散歩等行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	誤嚥防止、清潔保持に心掛け、個々の状態に応じて介助や声掛けを行っている。又、歯科医の往診により義歯の洗浄、調整、相談等行っている。	○	昼食後の口腔ケアに関しては、利用者全員が歯磨きの習慣がない等から拒否されることもある為、残留物がある方等必要な方を中心に行っている。今後の口腔ケアについて検討する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は毎日チェック表に記録, 食事の摂取状況に変化があった場合はケース記録に記入し、一人ひとりの状態を把握、観察を行い、好みの物やきざみ等工夫しながら個々のペースで食事が摂れる様に取り組んでいる。月に1回体重測定を実施している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルがあり、又、講習会を行い理解を深め取り組んでいる。(インフルエンザ予防接種、手洗い、うがいの励行、消毒方法、処理方法等)感染症防止委員会により留意点等説明を受けている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理器具使用後の殺菌消毒、食材の管理、調理方法、手洗いの励行等話し合いながら目標に取り入れ徹底を図っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家の周りには畑があり、広い庭もある。玄関に花を飾ったり普通の家であり、いつでも気軽に出入り出来る。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶の間にはテレビ、ビデオ、背もたれの椅子、ソファー、寒くなればこたつがあり、自由に利用している。行事に応じてみずき団子、ひな壇、七夕飾り、ツリー等飾ったり、季節の草花を生け季節感を感じていただき、音や、光については状況に応じて支援している。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	茶の間で好きな様にくつろいだり、ホールで利用者同士談話していて、一人ひとり自分の居場所がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた物、家具等、馴染みの物を持ち込んでもらうなど本人、家族と相談し工夫しながら安心と居心地の良い環境に努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	喚起、室温調整は担当職員が利用者の状態を考慮した上で取り組んでいる。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室の手すり、安定した家具の設置。照明への配慮。歩く場所に危険物を置かない。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや自分の居室が分かりやすいように工夫している。居室内は混乱しないよう整理整頓に取り組んでいる。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に椅子、テーブルを設置し日向ぼっこをしたり、お茶したり、談話している。又、畑があり、野菜の生育や収穫を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)